

テノール歌手
うちのくち かつや
内之倉 勝哉 さん

Uchinokura Katsuya (真方・新田場出身)

昭和58年生まれ。27歳。国立音楽大学大学院音楽研究科博士
後期課程音楽研究領域3年在籍。4月9日、文化会館にて自身初の
テノールリサイタル〜故郷へ贈る歌〜を開催。

あの大きなホールは、
これまでの舞台で感じたことが
ないほどの「暖かさ」に
満ちていました。

4月9日、文化会館大
ホールの舞台袖に一
人の青年がいた。彼の名は
内之倉勝哉、27歳。国立音
楽大学で声楽を学ぶ一人の
学生だ。人生初のリサイタ
ルを前に、不安と緊張の中、
開演を迎えた。

音楽に親しんでいた。小学
5年でピアノを習い始め
ると、音楽への熱意は高ま
り、音楽の教師を志すよう
になった。

そして高校生の時、運命
の人と出会う。当時在籍し
ていた小林高校音楽部の顧
問であり、音楽の教師であ
った藤田剛さんだ。当時
内之倉さんは、都城市まで
声楽を習いに通うほど、音
楽を勉強していた。ひたむ

き学ぶ内之倉さんに藤田
さんは音楽大学への進学を
進める。両親はこの時「将
来を考えると不安だった
が、頑張っているのだから
応援しよう」と決め、都城
市までの送迎など献身的に
支えた。それまでコンク
ールなどの実績もなかった
が、高まる音楽への情熱の
まま声楽科を受験。東京に
ある国立音楽大学の合格を
果す。

で、耳の肥えた観客の前で
披露される歌声の救々に、
いつかこの舞台に立ちたい
と夢見るようになっていた。

だが、それは進んできた道
が間違っていないなかったこと
の証でもあった。

帰国後すぐの昨年11月、
ウィーンの空気が残ってい
るうちにと宮日音楽コン
クールに出場。これまでコ
ンクールにはほとんど出場
したことがなかったが、声
楽部門の最優秀グランプリ
を受賞した。自分でも驚い

迎えた4月9日、地元小
林市で自身初めてのリサイ
タル。不安と緊張のなか幕
が上がると、ピアノ伴奏は恩
師の藤田さん。コンサート
が始まると、大きなホール
は、これまで感じたことが
ないほどの「暖かさ」に満
ちていた。すぐに「それは「故

郷」の暖かさだ」と気づいた。
その中で、柔らかく、しな
やかだが力強い歌声で観衆
を魅了する。約2時間、オ
ペラを含む全20曲を力の限
り歌い上げた。これまで自
分を育ててくれた両親に、
友人に、お世話になった全
ての人へ感謝の気持ちを込
めて。歌い終わると、ホ
ール全体に大きな拍手が鳴り
響く。「こんなにも幸せなこ
とはない。小林で生まれて
よかった」と心から思った。

リサイタル終了後、内之
倉さんは「舞台から見える
たくさんのお客様と、暖か
い雰囲気にもまれたホール
を一生忘れることはありません。
また歌わせていただけ
る機会があれば、より成長
した姿で、あの舞台に立ち
たいと思います。コンサー
トを支えてくれたすべての
皆様へ、心より感謝いたし
ます」と語ってくれた。
本人いわく「これが歌手
への第一歩」。一身に拍手
を浴びた一人の若者が、テ
ノール歌手という夢の扉を
今開いた。